取り柄も自信もなかった私のこれから



北梅田ロワイヤルおとなこども歯科
村上　　光
2024年９月

【はじめに】
私が歯科業界に入ったのは2023年の10月1日、受付・助手として入職した。それまでは6年間保育士をしていたので、歯科知識、医療知識は皆無だった。毎日迎える歯科の仕事は、目新しく、初めてのことばかりで歯について知っていく、学んでいくことが面白く楽しかった。

ただそんな中迎える前TCの寿退職。それに向け院長先生は次期TCを在籍スタッフから選出し、配置転換しなければならなかったのだろう。「4月から始まるTCマスターカレッジのレギュラーコースを受講して、TCになってほしい。」との言葉を頂いた。
歯科業界に入って６ヶ月の私。自信も無いし、やっていける展望が全く見えない。不安がとても大きく伸し掛かったように感じた。その反面、院長先生の期待に応えたい、私の世界ももっと広がるとワクワクしてしまっている自分もいた。その気持ちが不安よりも少しだけ上回っていたのだろう。気がつくとスタッフルームで「行きますっ！」と応えていた。

【TCレギュラーコースを受講して】
毎月レギュラーコースを受講する度に感じること、それは私の仕事ぶりを見ているかのように毎回躓くところを講義の中で触れてくださることだ。
そうそう！そこが聞きたかってん！といつも心の中で大きく頷いていた。

例えば、衛生士と話す中で「あの人デンタルIQ低いからなんべん言うても歯磨き一日一回しかしてけーへんねん。しかも朝やねん！ひどい時なんか歯ブラシすること忘れるらしいで！」と会話になる。講義を受けるまでは、そんな患者様を否定的に見ていた。しかし第3回の講義で伝わる５つのテクニックで、こちらの伝え方に問題があったのだと知った。問題点が分かれば人はそれを改善したいと考えるものなのだから、テクニックを用いて、有益な情報を接する患者様全ての人に伝えていきたい。

レギュラーコースを受講し終え振り返ってみると、最初の頃は、患者様との一対一の空間が苦手だった。それは私の経験の浅さ、知識の不完全さからく

る自信の無さが患者様に見透かされてしまう、延いては医院の信用に影響するという不安があったからだ。
しかし、臨床現場に直結したカリキュラムで私達TCを育成し、医院に戻って学んだことを試す度に、スキルアップを感じた。マスターカレッジへ帰ると、徹底的なサポートがあり何度も救われた。

つまり、受講する毎に私の自信の無さは断ち切られ、テクニックやマニュアル、マイケルなどのツール類を活用することで、進化し始めたのだ。

【日本の歯科医療におけるTCの役割】
日本では保険制度があり、国が認めた治療として国民に「安心で安い」と認識され自動的に保険治療が行われている様に思う。歯科で働くまでは、私もその1人だった。
ただその裏に隠された、ロススパイラルを来院される患者様に伝えていくと、大多数の方々が目を丸くし、あるいは頭を抱えている方もいた。
そんな患者様の聞きたいことと私達TCが伝えたいことのギャップを埋めるべく、カウンセリング・患者教育を通して患者側に新しいwantsを作る。つまり、TCの仕事とは患者様に寄り添いつつも、目の前の現実を認識させ、理想を提案し、希望に変えることである。
その為にも患者様とラポール形成し、情報を引き出し、クライアント中心療法で医院と患者様を繋げる架け橋であることがTCの役割であると考える。

鈴木先生の言葉は、度々私の中にある常識や理解を覆した。その中でも1番衝撃を受けたのが「疾患を治すことを強要するより、患者に健康であることの要求を高めるのがTCの務めである。」という言葉だ。雷が落ちた様に響いたのを覚えている。医療機関は疾患を治す場所だと認識していたのはきっと私だけではない様に思う。そんな概念を取っぱらい、全ての人に予防の重要性を伝えることはこれからの日本の歯科医療において必要不可欠と考える。噛める喜び、生きる喜び、健康である喜び、これらをクォリティ・オブ・ライフとして皆が持っていきたい。

【スクールでの学びを医院でどう活かせるか？】
講義の中で登場したジュディさんからの手紙には、
「自分の可能性に蓋をしない。もっと強くならなければならない。そのためには学びなさい。行動しなさい。そして信頼しているbossにもっともっと近づきなさい。強く立ち上がるべきだ。」と記されていた。
その言葉を胸に、半年間学び続け、糧にして来たテクニックや知識、雑談力を活かして患者様との関係を唯一無二していきたい。また、これから色んな困難に遭遇するかもしれないが、医院全員で共に挑戦し乗り越えていけるよう、スクールで学んだことをスタッフにアウトプットしていく必要がある。
この熱量を歯科業界一年目の私が、スタッフに共有するのはかなり難易度が高い。ただ、負けてはいけないのだ。立ち上がり、チーム医療として目指すところは同じでなければならないと強く思うからだ。
相手への理解がなければ上手くはいかない。まずは自分を知り、相手を受け止め、受容する。変えるべきは自分と未来なのだ。
今やっとTCとしてスタート地点に立てた。
これからスタッフと一緒に、自分の弱い心が作り上げた言い訳である“限界”を突破し、医院に貢献していきたい。
それは当院のクレドにもある、「患者様の治療の品質や満足度の為、自分たちの幸せの為、医院のために利益を追求する」ことにも繋がるだろう。

【おわりに】
初診カウンセリングをすると歯科が苦手、面倒と感じている方々が非常に多い。その為歯医者に中々来れず、口腔内の問題点が多すぎて大掛かりな治療を余儀なくされている。そしてそんな人たちに検査結果を伝えると、心が折れていっているのもしばしば見て来た。私には夢がある。ここの歯医者と出会えたのは運命と感じるほどの感動を、歯科にマイナスイメージを持つ方に抱いてもらうことだ。
それには、歯科医師・歯科衛生士がそれぞれの専門業務に集中して専念できるよう治療計画や想いのバトンを私達TCが受け取り、患者様の心に送り届ける必要がある。

最善の治療計画でもあるベストプラン。それは生涯診断・生涯カウンセリングとして、患者様が生涯困らないようフルマウスカウンセリングを完璧にそして、正論としてではなく、聴きやすいもの、受け入れたくなるものとして

提供する。TCとしての責任と誇りを忘れず、目の前の患者様を救う手段、そして将来に希望がある！と伝えていくことに全力で取り組みたい。そんなTCで在りたい。

最後になりましたが、今回学ぶ機会を与えてくださった院長先生、不安定なTCを支えてくれたスタッフのみんな、そして勉強を言い訳に家事を疎かしても快く許してくれた夫、何よりカリスマTCである鈴木先生をはじめ、講師の先生方、幹部スタッフの方、そして城戸さん、本当にありがとうございました。
五回では足りない、もっと教えてほしいと感じるほど、飽きさせることなく笑いも交えての講義は、素晴らしすぎました。
日本のTC普及への先駆者たちである皆様の更なるご活躍を楽しみにしております。
ありがとうございました！

以上2646文字